

## 主要枕詞ことば一覽

ある語句を言い起すために、その前に置かれる語。五音節以下で、かかる語との関係は固定的である。上段が枕詞、下段がかかる語。

## あ

あがころ [吾が心・我が心] 明石あかし  
 ・清閑きよかん・筑紫つくし  
 あかねさす [西さす] 日・昼・光・紫・君  
 あきぎりの [秋霧の] 晴る・おほつか  
 なし・籬かき  
 あきやまの [秋山の] したふ・した  
 ひ・色なつかし  
 あざがすみ [朝霞] 鹿火屋かき・八重やえ  
 春日はる  
 あざぎりの [朝霧の] 乱る・惑まどふ  
 おほおほぼるぼる・八重やえ  
 あざごほり [朝水] 解くとく (うち解ける)・疾はやく  
 あざちほの [浅茅原] つばらつづばら  
 (つくまなく・まんべんなく)・小野の  
 の野  
 あざちふの [浅茅生の] 野・小野の  
 あざつゆの [朝露の] 消ゆ・消といの  
 ち・置く  
 あさもよし [麻裳よし] 紀城きじょう  
 あしかきの [葦垣の] 古ふる・思おもひ乱  
 る・外ほか・間近まぢか・吉野  
 あしがもの [葦鴨の] うち群る  
 あしたつ [葦鶴の] 音ね泣く・たづ  
 たづたづし  
 あしねはふ [葦根這ふ] 下・憂うれき  
 あしねの [葦の根の] ねころも・短

し・分く・渥あつ・節ふし・憂うれき・世・夜  
 あしひきの 峰みね・山・尾の上おの・岩根いわね  
 葛城かつらぎ・山・笛吹ふえ・山・岩倉いわくら・山  
 あぢさはふ 日・夜昼知らず  
 あづさゆみ [梓弓] い・いる・ひく・は  
 る・本もと・末すえ・音ね  
 あはしまの [雲鳥の] 逢あはじ  
 あまじもの [天雲の] たゆたふ・はる  
 か・ゆくらゆくら・行く・別わかれ・別  
 る・奥  
 あまさかる [天離る] 鄙ひた・卑ひた・向  
 かかふ  
 あまつたふ [天伝ふ] 日・入り日  
 あまとぶや [天飛ぶや] 鳥・雁かり・輕  
 かる  
 あまをぶね [海人小舟・蜃小舟] はつ  
 あらかねの [粗金の] 土  
 あらたへの [荒砂の] 藤ふぢ  
 あらたまの [新玉の・荒玉の] 年・月  
 日・春  
 あらひきぬ [洗ひ衣] 取替川とりかひ  
 ありそなみ [荒磯波] あり  
 あわゆきの [泡雪の・沫雪の] 消け  
 あをによし [青丹よし] 奈良  
 あをはたの [青旗の] 忍坂しのさかの山・木  
 幡はた・葛城かつらぎの山  
 あをやきの [青柳の] 糸・葛城山かつらぎ  
 ・細こき眉まゆねね  
 いさなとり [鯨取り] 海・浜・灘な  
 いそのかみ [石上] 古ふる・降ふる・振ふるる

いははしの [石橋の] 間ま・遠とほし・近ちかし  
 いははしる [石走る] 滝・垂水たき・近  
 江ちかみ  
 いゆししの [射ゆ獸の] 行ゆき死しぬ  
 心痛こころいたし  
 うたかたの [泡沫の] 憂うれき身  
 うちなびく [打ち靡く] 草・黒髪・春  
 うちひさす [うち日さす] 駿河すまが  
 うちよする [うち寄する] 駿河すまが  
 うつせみの 世・人・命・身  
 うばたまの [烏羽玉の] 黒夜・髪・夢  
 うまさけ [旨酒・味酒] 三輪さんりん・三室  
 うまうま・二語ふたごもも  
 うもれぎの [理もれ木の] 下・人知れ  
 ぬ・隠かくる  
 おきつなみ [沖つ波] 競まはふ・頻しばしばく・  
 撓たがむ・高たかし  
 おきつもの [沖つ藻の] なびく・隠かく  
 る  
 おくつゆの [置く露の] 斯しかかる・阿  
 田あ・白麻衣しろまゐ・玉造江たまぞうえ・玉  
 江  
 おしてる [押し照る] 難波なにわ  
 おほきみの [大君の] 三笠山さんかさ  
 おほくちの [大口の] 真神まご  
 おおとの [天伴の] 御津・見つ・高  
 師たかし  
 おほぶねの [大船の] 思おもひ頼たのむ・津  
 渡り・たゆたふ・ゆた・ゆくらゆく  
 ら・香取かぐり

かくれぬの [隠れ沼の] 下・水みづ隠かくり  
 ・底  
 かないとの [片糸の] よる・より・くる  
 ・ふし・あふ・緒いと  
 かむかせの [神風の] 伊勢  
 からころも [唐衣・韓衣] 着る・裁つ  
 裾すそ・袖そで・返かへす紐ひも  
 からにしが [唐錦] 裁つ・織る・縫ぬふ  
 かりこもの [刈り菰の] 乱る  
 かるかやの [刈萱の] 乱る・思おもひ乱る  
 ・穂ほを出いづ  
 くさまくら [草枕] 旅・旅寝・度たび・多  
 胡こ・結むすぶ・夕ゆふ  
 ぐすのは [葛の葉の] 心こころ・恨うらめし  
 ・恨うらみ  
 くれたけの [呉竹の] 伏ふし・伏見・代  
 々たが・世・夜  
 くれなるの [紅の] 色・浅あき・うつし・  
 振ふるり  
 くれはとり [呉織・呉服] 綾あや・怪あや  
 し・奇あやなり  
 くらかみの [黒髪のとけ] みだれ・  
 ながき  
 こもりくの [隠りくの] 泊瀬とまりせ  
 こゆるぎの [小余綾の] いそ・急いそぎ  
 ころもでの [衣手の] 別わかる・帰かへる・田  
 上たかみ・高屋たかや  
 さきくさの [三枝の] 三みつ・中なか  
 ささぐきの [細蟹の] いと・いづこ・  
 いのち・いとふ  
 ささなみの [小波の・細波の] 寄る・  
 夜・怪あやし  
 さすたけの [刺す竹の] 君・皇子みこ・大  
 宮

## さ

かくれぬの [隠れ沼の] 下・水みづ隠かくり  
 ・底  
 かないとの [片糸の] よる・より・くる  
 ・ふし・あふ・緒いと  
 かむかせの [神風の] 伊勢  
 からころも [唐衣・韓衣] 着る・裁つ  
 裾すそ・袖そで・返かへす紐ひも  
 からにしが [唐錦] 裁つ・織る・縫ぬふ  
 かりこもの [刈り菰の] 乱る  
 かるかやの [刈萱の] 乱る・思おもひ乱る  
 ・穂ほを出いづ  
 くさまくら [草枕] 旅・旅寝・度たび・多  
 胡こ・結むすぶ・夕ゆふ  
 ぐすのは [葛の葉の] 心こころ・恨うらめし  
 ・恨うらみ  
 くれたけの [呉竹の] 伏ふし・伏見・代  
 々たが・世・夜  
 くれなるの [紅の] 色・浅あき・うつし・  
 振ふるり  
 くれはとり [呉織・呉服] 綾あや・怪あや  
 し・奇あやなり  
 くらかみの [黒髪のとけ] みだれ・  
 ながき  
 こもりくの [隠りくの] 泊瀬とまりせ  
 こゆるぎの [小余綾の] いそ・急いそぎ  
 ころもでの [衣手の] 別わかる・帰かへる・田  
 上たかみ・高屋たかや  
 さきくさの [三枝の] 三みつ・中なか  
 ささぐきの [細蟹の] いと・いづこ・  
 いのち・いとふ  
 ささなみの [小波の・細波の] 寄る・  
 夜・怪あやし  
 さすたけの [刺す竹の] 君・皇子みこ・大  
 宮

さばへなす【五月蠅なす】荒ぶ・騒ぐ  
しきしまの【敷島の・磯城島の】大和

しきたへの【敷き袴の・敷き妙の】  
枕・袖・衣・黒髪・袂たもとなど家

しなるてるや【級照る(や)】片岡山・  
鳴門の海

しらくもの【白雲の】立つ・絶ゆ・竜  
田

しらたまの【白玉の】緒いと絶えの橋・  
を止む・鏡捨山やまをりて

しらつゆの【白露の】おく・消ゆ・た  
ま

しらなみの【白波の】よる・あと・な  
ごり・うち・かへるいちしろし

しろたへの【白袴の・白妙の】衣・袂  
など・袖たもと・藤ふじ・雪雲波

すがのねの【菅の根の】長ながが・乱る・  
ねものころ

そらみつ やまと(大和)倭

## た

たかてらす【高照らす】日・ひ  
たかひかる【高光る】日・ひ

たくなはの【袴繩の】長し・千尋ちとせの  
たまかきる【玉かきる】日・夕・ほの  
か・磐垣淵いわがき

たまかつら【玉勝間】あふ・安倍あへ  
たまかつら【玉勝・玉蔓】遠し・長し・  
這はふ・絶ゆ・実ならぬ樹・花のみ咲

たまかつら【玉蔓・玉縷】かけ・かけ  
おもかけ

たまきはる 命・うち・幾世(幾代)  
たまきしげ【玉櫛笄】ふた・箱覆ふ・  
あく・奥・み

たまだすき【玉簪】かく・うね  
たまだれの【玉垂れの】越賀・小簾こすだ

たまつさの【玉梓の】使つかひ・妹いも・人  
たまのをの【玉の緒の】絶ゆ・長し・  
短し・つづ

たまぼこの【玉梓の】道・里  
たまもかる【玉藻刈る】敏馬みま・辛荷しんか

たまもなす【玉藻なす】浮かぶ・寄る  
に・沖うきをとめ

たらちねの【垂乳根の】母・親  
ちはやぶる【千早ぶる】神

つがのきの【梅の木】つぎつぎ  
つきくさの【月草の】移るふ・消きず

つこのにの【津の国の】名には・流す  
・ながらふ・此や・来や・見つ

つこのさはふ いは(出石)石  
つゆしもの【露霜の】秋・置く・消きり・  
寒ふせき

つるぎたち【剣太刀】名・己おの・身・と  
ぐ

とぶとりの【飛ぶ鳥の】あすか  
とほつひと【遠つ人】松・雁・無道むどう

ともしびの【灯火の】明石あけいし  
とりがなく【鳥が鳴く鳴が鳴く】  
東あづま

## な

なつくさの【夏草の】野鳥・思ひしな  
ゆ・あひね・茂し・深し・かりそめ

なつころも【夏衣】ひとへ・うすし・  
裁きつ・着る・すそひも

なよたけの【弱竹の】とをよる・夜・  
世・齡

なるかみの【鳴る神の】音ねを  
にはたつみ【庭漚・行漚】流る・川

にほどりの【鴉鳥の】潜ひそく・葛飾・  
なつさふ・息長いきなが・二人並び居る

ぬえどりの【鶴鳥の】のどよふ・うら  
なく・片恋

ぬはたまの【射干玉の・野干玉の】  
黒・夜・闇やみ・夕ゆふ・髪・夢・月

## は

はなすすき【花薄】ほにいづ・ほのか  
はなすの【柞葉の】母

はぶくすの【這ふ葛の】遠長し・後のち  
は行くへ・絶えず・下・たづぬ

はるがすみ【春霞】春日はるが・立つ・立  
田た・居る・井・よそ

ひさかたの【久方の】光・天・月・日・  
雨・雲・都

ふかみるの【深海松の】深む・見る  
ふゆごもり【冬籠り】春・張る

ふるゆきの【降る雪の】消きり・行き・白  
髪・糞代衣ふんしろ

## ま

まかねなく【真金吹く】吉備よ・丹生に  
まさばしら【真木柱】ふと

まこもかる【真孤柱の】淀・堀江・美  
豆ま・玉江

まそかがみ【真澄鏡】見る・掛く・清  
し・磨をく・照る・面影おもかげ・影

まつがねの【松が根の】待つ・絶ゆる  
ことなく

みこころを【御心を】吉野・広田・長  
田

みつづきの【水茎の】水城みづき・岡  
みつとりの【水鳥の】うき・たつ・鴨

みつみつし 久米くみめく

みなせがは【水無瀬川】下  
むらきもの【群肝の・村肝の】こころ

むらとりの【群鳥の】朝立つ・立つ  
もちづきの【望月の】たははし・足た  
れる・めつらし

ものふの【物部の・武士の】八十や・  
五十

ももしきの【百敷の・百磯城の】大宮  
ももつたふ【百伝ふ】八十や・五十

## や

やくもさす【八雲さす】出雲いづも  
やくもたつ【八雲たつ】出雲いづも

やすみしし【安見知し・八陣知し】  
わが大君・わが大君

やまがはの【山川の】たぎつ・おと・  
あさあ・はやし

やますげの【山菅の】やまず・乱れ・  
背向さかむかひ

ゆくどりの【実く鳥の】争ふ・群むらがる  
ゆふだすき【木綿襦】かく・むすぶ

ゆふづくよ【夕月夜】暁聞あけみ・をく  
ら・入る

## わ

わかくさの【若草の】夫つま・妻・新にい  
わぎもこに【我妹子に】逢坂あさか・山・淡

海うみ・淡路あわじ

わぎもこを【我妹子を】いざみの山・  
早見の山

をしどりの【鶯鶯の】憂うれき  
をとめらに【少女らに】行きあひ・逢

坂さか・山